

どなたでもご受診いただける地域の病院



東京警察病院 NEWS

TMPH Tokyo Metropolitan Police Hospital
2021 Winter Vol.33

CONTENTS

- 副院長挨拶
- 新型コロナウイルス対策
特集4「冬とコロナ」
- 整形外科の紹介

本年も多大なるご支援、ご協力をたまわり誠にありがとうございました。

本年は、新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延に伴い、医療のみならず社会全体が大きな影響を受けた1年でした。当院では、3月より帰国者接触者外来を開設して、PCR検査、抗原検査を行い、この年末年始の期間も休まずに継続いたします。

診療抑制を余儀なくされた時期もございましたが、新型コロナウイルス感染症患者の入院受入とともに「東京都の新型コロナ疑い救急医療機関」としての活動を行うとともに、地域に根ざした通常の医療が滞りなく維持できることを念頭に診療を行い、この年末にはコロナ禍以前の状況まで戻って参りました。現在は入院患者の皆様の感染防止対策として、面会や外泊を禁止しており、ご不自由をおかけしておりますが、落ち着くまでの間引き続きご理解ご協力をお願いいたします。

来年も、更なる医療水準の向上と医療安全の推進を目指して参ります。放射線治療機器のリニアックを、高い治療効果が得られるIMRT(強度変調放射線治療)の行える最新の機種に更

新し運用を開始いたします。また、救急センターの診療体制を強化することにより、救急診療の要請に対して可能な限り対応できるよう努力いたします。院内全体で使用している電子カルテは、より安全な診療が円滑に行われるよう、来年中に新規システムの構築を完了する計画です。本年導入した手術支援ロボット「ダヴィンチ」やがんの最先端画像診断装置PET-CT、3台で運用することになったMRIなども順調に稼動しており、更に皆様のニーズに応えられるものと考えています。

コロナ対策を行っていくことは当然ですが、当院の役割である地域の基幹病院として、来年も質の高い医療を皆様に提供できるよう職員一同努力する所存です。

どうぞ宜しくお願いいたします。

令和2年12月
副院長 冬賀 秀一



副院長 高澤 和永



副院長 冬賀 秀一



院長 長谷川 俊二



副院長 佐藤 博明



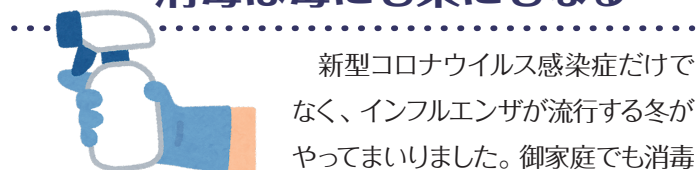
冬とコロナ

臨床検査科部長 林 達之



冒頭から言い訳めいて申し訳ありませんが、この原稿を書いているのは10月第2週であり、皆様の目に留まる2か月の間に新しい医学的知見が集まり、公的機関から生活行動様式のガイドラインが示された際には、それに従うようお願い申し上げます。

消毒は毒にも薬にもなる



新型コロナウイルス感染症だけでなく、インフルエンザが流行する冬がやってまいりました。御家庭でも消毒をこまめにとお考えの方も多いことでしょう。2020年春の新型コロナの流行「第1波」では、マスクと並んで品不足になった商品の一つに消毒用アルコールがありました。我先にとドラッグストアに走った記憶のある方もあると思いますが、ちょっと待って下さい。お買い求めのアルコールの主成分は何ですか？

新型コロナウイルスにはエンベロープという殻があり、ここにアルコールが作用してウイルスを破壊してしまうと考えられていますが、その「アルコール」の種類は一つだけではありません。

国立感染症研究所は『新型コロナウイルス感染症に対する感染管理(2020年10月2日改定)』の中で、『自宅等において、患者が発生した際、大がかりな消毒は不要であるが、長時間の滞在が認められた場所においては、換気をし、患者周囲の高頻度接触部位などはアルコール(エタノール又は2-プロパノール)あるいは0.05%の次亜塩素酸ナトリウムによる清拭で高頻度接触面や物品等の消毒の励行が望ましい』としています。

お酒好きの方が、『体の中から消毒だ!』などと言い訳して飲むアルコールはエタノール(エチルアルコール)ですが、それと一字違いのアルコールがメタノール(メチルアルコール)です。メチルアルコールは「目散る」アルコールとも言われる位、ヒトに対する毒性が強く、終戦後の日本で密造酒による急性中毒が発生したのは

歴史的逸話ですが、現代でも『急性中毒の事例としてはエタノールと誤って飲用することが多い』(日本中毒学会ホームページ)とされ、その原因はメタノールを主成分とする燃料用アルコールにあります。実は「第1波」の際に、『燃料用アルコールは売り切れなのに、無水アルコールが全然売れていない』と、消費者が誤った使い方をしていないかを指摘するツイッター等複数目にしました。

まさか、これをお読みになっている方の中に、燃料用アルコールを薄めて消毒用アルコールを作ろうとした方はいらっしゃいませんか？絶対におやめ下さい。『メタノールは、消化管粘膜および気道粘膜、皮膚より速やかに吸収され』(同学会ホームページ)ますので、素手で燃料用アルコールを扱いながら、揮発する成分を吸い込んでしまったら、消毒でなく中毒です！

もし消毒用アルコールを自作されるのであれば、「無水エタノール」を「蒸留水」で割って濃度調整して下さい。

国立感染症研究所は先の文書の中で、『60%のアルコール濃度の製品でも消毒効果があるとする報告もあることから、アルコール(エタノール又は2-プロパノール)(70%)が手に入らない場合には、エタノール(60%台)による清拭も許容される』とも記しています。しかしお酒としての濃度(15-40%)のエタノールでは消毒効果はなく、時代劇で見掛ける、「焼酎を口に含んで、傷口にプーっと吹き掛ける」シーンは演出です。

ではなぜ100%近い高濃度のエタノールが推奨されないのか、疑問に思われるかも知れませんが、高濃度過ぎると微生物に作用する前に揮発してしまうので、消毒効果を示さないのです。



鍋奉行とコロナ



冬と言えば鍋料理、お鍋を囲んで家族団らんという御家庭も多いでしょう。でもちょっと待って下さい。以下はお鍋に「水を差す」話です。

国立感染症研究所は、沖縄県における2020年2月14日から5月31日までの新型コロナウイルスの家庭内感染についての報告をまとめました(IASR, 2020年9月号)。それは同居家族を持ち、家庭内で最初に発症した患者(初発者)78人(78世帯)と、その家庭内接触者174人を調査対象としたもので、家庭内2次発症率は12.1%(21/174人)でした。2次発症率は諸外国と比べて差はないのですが、高齢者と基礎疾患を有する人が発症のハイリスク群であると示唆され、高齢の配偶者同士、30-50歳代の配偶者

同士やその親世代への2次感染リスクが高いと考えられました。また初発者の発症日と2次発症者の発症日の検討から、初発者の発症初期に既に家庭内で2次感染が成立していると考えられました。同報告は『可能な限り同居者(特にハイリスク者)と接触を回避するなど、家庭内で実施可能な感染予防策を講じる必要があると考えられた』と結んでいます。

「鍋奉行」という言葉は、『鍋料理を食べるとき、材料を入れる順序や食べ頃などをあれこれと指図する人』(三省堂、大辞林第3版)と説明されています。御家庭に鍋奉行がいらっしゃって、あれこれ口数多く解説しながら、個人のお椀を勝手に取って食材をよそってしまう場面があるとしたら、感染症学的には如何なものか、と思います。お鍋を囲んでも、静かに箸を進め、黙って微笑み合えばシアワセ、というものです。——「水を差す」話から「水入らず」の話でした。





東京警察病院
Tokyo Metropolitan
Police Hospital

診療のご案内

整形外科

紹介状をお持ちの方は診療予約ができます。

東京警察病院 医療連携室 (月～土 8:15～17:00)

TEL 03-5343-5760/5762 (ダイヤルイン)

FAX 03-5343-5761 (医療連携室専用)

整形外科について紹介いたします。

令和2年12月現在9名の常勤医師が在籍しております。そのうち整形外科専門医は5名ですが、来春新たに3名が専門医に、再来年にはさらに1人が専門医になり、現在在籍する医師全員が整形外科専門医となる見込みです。

外来を受診される患者さんのほとんどは、通院による投薬、注射、リハビリなどの治療により日常生活は改善や運動も継続できるようになりますが、中には手術を必要とする場合もあります。手術が必要となるのは、痛みやしびれ、機能障害などにより日常生活に大きな支障がでて継続している場合や、多くの骨折です。骨折はギプスで治すものもありますが、ギプスをするとう関節が硬くなり正常化までに時間がかかるため、最近ではほとんどずれのない骨折以外は手術をして金属で固定して早めからリハビリを行う治療法が主流です。当院でも積極的に骨折の患者さんを受け入れ、手術治療を行っています。

以下、当院整形外科が特に力をいれている分野について紹介します。

人工関節センター：古澤医師、角田医師を中心に、変形性関節症（膝、股関節）に対して人工関節を行っています。年間180～190件の手術を何年も続けており経験豊富で、手術前後の管理についても万全の体制をいいております。

スポーツ・関節鏡外来：西原医師が肩の反復性脱臼や腱板断裂、膝の靱帯損傷、半月板損傷などを専門的に診察する外来です。手術をしなければ絶対治らない反復性脱臼や前十字靱帯断裂は積極的に手術を行っています。例年、年間130～140件の手術を行っています。

足の外科：主に太田医師が外反母趾、リスフラン関節損傷などの疾患を診察しており手術も行っております。



外傷：主に西坂医師、尾関医師、西田医師、儀部医師が上級医と共に手術を行っています。骨折で手術が必要と言われましたら、当院へご相談ください。



整形外科医師紹介



部長 西原 洋彦 平成3年 山形大学卒業
警察病院に入職以来、西東京警察病院、公立昭和病院での数年の在籍期間以外はずっと警察病院で働いております。仕事内容としては、関節鏡を使った膝のスポーツ外傷、肩の脱臼、腱板断裂の治療を得意としております。骨折の治療の経験も豊富であり、後輩の指導をしながら行っております。趣味はピラティスで、インストラクターの資格もとっており現在週に2-3回通って、体調の管理をしています。普段から姿勢や呼吸を意識することによって体は健康になります。そういった指導も必要であれば患者さんにさせてもらっております。



部長 古澤 達也 平成2年 高知大学卒業
東京警察病院関連施設での研修・勤務の他、2005年から1年間はベルリンのエーミル・フォン・ペーリング病院で人工関節を学びました。現在は股関節・膝関節の人工関節置換術を専門として科の運営管理をしながら年間200件ほどの手術を行っています。関節の痛みから解放され、動けることは若返りを意味します。「笑顔で楽しく歩ける人生」のお手伝いができればと日々精進していますので、是非ご相談ください。



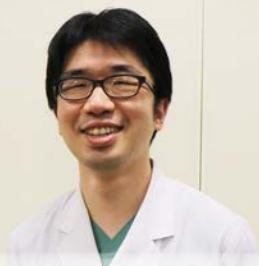
角田 直也 平成17年 東京慈恵会医科大学卒業
慣れない子育ても一段落し、膝関節・股関節の人工関節置換術を中心とした治療を行っております。疼痛を訴える患者さんに寄り添い、適切な治療をご提供したいと思っております。痛みや機能障害でお悩みの方がおりましたら、どんな些細なことでも構わないので御相談下さい。外来でお待ちしております。



太田 光紀 平成21年 東京医科大学卒業
東京警察病院、公立昭和病院等で研修を行ない、2020年7月より足の外科専門外来も担当しております。外反母趾、変形性足関節症、扁平足、リスフラン関節損傷、Morton病、足根管症候群などの足の外科疾患を取り扱っております。手術療法をはじめとして、運動療法の指導、装具療法、エコーガイドでの注射といった保存加療にも取り組んでいます。人工膝関節・股関節、前十字靱帯再建、骨粗鬆症治療、一般外傷等もご相談下さい。



西坂 晋悟 平成21年 順天堂大学卒業
東京警察病院、東京女子医大、公立昭和病院等で整形外科の研修を行ないました。また、麻酔科での研修経験もあり、麻酔科標榜医・認定医を取得しております。現在は、前十字靱帯損傷などのスポーツ外傷、関節鏡手術、骨折や人工関節などの手術を行なっております。外来では、各種疾患の保存的治療や、エコーを用いた診断・注射等の治療も積極的に取り入れております。些細なことでも是非ご相談ください。



尾関 拓磨 平成24年 日本医科大学卒業
これまで東京警察病院・公立昭和病院で研修・勤務してきました。自分自身骨折・手術による痛み・つらさは経験があり、その経験を活かして患者さんの気持ちに寄り添いながら診療を行っていきたくと考えております。現在一般外傷に加え、人工関節手術や関節鏡を用いた手術にも取り組んでおります。どんな整形外科疾患でも御相談ください。



西田 尚紀 平成26年 浜松医科大学卒業
東京警察病院で初期研修も行い、当院での勤務年月は長いので、あらゆる職種とも連携を活かして日々診療にあたっています。救急疾患、外傷外科を中心に、人工関節置換術など多岐にわたる整形外科疾患を治療しています。どんなことでも御相談ください。



儀部 正樹 平成27年 琉球大学卒業
外傷を中心に、整形外科疾患なら何でも診ます。当院で前十字靱帯再建術も受けており、術後の患者さんの気持ちや、当院でのケアの実情、術後のリハビリも自信を持って推奨できます。些細なことでも御相談ください。



富岡 義仁 平成28年 富山大学卒業
米国インディアナ州立大学アスレティックトレーニング学科を卒業後、富山大学に編入し医師となりました。経歴を活かしスポーツドクターとしてアメリカンフットボールを中心に高校、大学でチームドクターもしております。IOC Diploma in Sports Medicineも取得し、2021年東京オリンピックでは選手村、バドミントン競技でドクターを務める予定です。スポーツ外傷では、受傷後や手術後の治療のみを目的とするのではなく、競技復帰までを考えた医療を行っております。